

全学学類・専門学群・総合学域群代表者会議

第一回本会議

令和7年05月14日（水）

（議事次第）

議題

- ・議長団選挙

タイムテーブル

当日の時刻	日程
18:30	再開
18:31~19:11	質疑応答
19:11~19:25	投票
19:25~19:32	開票
19:33	終了

出席者

学類等代表者 59 名 うち遅刻者 1 名 詳細省略

資料一覧

- ・議事次第

議題 「議長団選挙」

- ・令和7年度議長団選挙について

…… P25001-00

- ・令和7年度議長団選挙立候補者一覧

…… P25001-01

- ・令和7年度議長団選挙実施要項

…… P25001-02

- ・学長決定「筑波大学の学生組織等について」

	…… P25001-03
・副学長決定「筑波大学における学生の組織及びクラス連絡会等について」	
	…… P25001-04
・「全学学類・専門学群・総合学域群代表者会議について」	
	…… P25001-05
・議長選挙演説資料（吉川 栞 提出）	
	…… P25001-06
・副議長選挙演説資料（桑原 侑 提出）	
	…… P25001-07
・副議長選挙演説資料（坂入 快 提出）	
	…… P25001-08
・副議長選挙演説資料（松本 明香里 提出）	
	…… P25001-09

以下、議事録

再開

○近藤 拓未（令和6年度議長）

これより、令和7年度第一回本会議を再開する。

出席確認・資料確認

○近藤 拓未（令和6年度議長）

開会に先立ち出席を確認した。学類等代表者の出席者は59名である。本会議の定足数を満たしたことを確認した。

議題

○近藤 拓未（令和6年度議長）

これより休会中に事前に受け付けた質問を立候補者に回答してもらおう。質問者は回答を受けて追加で質問できる。1つの質問につき立候補者の解答時間を3分とする。ただし、オブザーバーの質問についてはその限りではない。投票により構成員の過半数の得票を得た者が副議長として選出される。

○近藤 拓未（令和6年度議長）

まず1つ目の質問をお願いする。

○吉川 栞（工学システム学類）

松本候補への質問である。松本候補は今年度、新入生歓迎特別委員会の委員長を務めるが、秋学期以降、副議長と委員長のタスクが重なる。自身のタスク管理はどのように行うのか。

坂入候補への質問として、外部向けの質問箱と教育生活環境調査が実施する質問箱の棲み分けはどのように行うのか。

○松本 明香里（副議長候補）

委員会の方向性としての意思決定は行うが、実務的な内容は各担当長が中心となるので問題なく進む。そのため、タスク管理については問題ない考える。

○坂入 快（副議長候補）

外部向けの質問箱には、管轄を越えた質問が入る可能性が消しきれない。各質問箱の棲み分けを意識しつつ、担当をする各委員会に振り分けをしていく。

○櫻田 翔（情報科学類）

松本候補は他委員会との関わりを増やすために、各委員会の活動内容をまとめ、自分が各委員会に回って共有すると仰っていた。具体的に委員長連絡会ではできないことを松本候補が行うということか。

○松本 明香里（副議長候補）

委員長連絡会は委員長が各委員会で行ったことを他の委員会に連絡する場となっている。全代会1年生の交流として行う場としては向いていないと考える。全代会構成員の交流イベント等を行っていきたい。

○関 智亮（知識情報・図書館学類）

全員に2つの質問をする。なぜ議長ではなく、副議長に立候補したのか。副議長に当選した場合、議長の公約との相違によって、自身の公約の実現が制限されるリスクがあると考えている。また、昨年度に中心となって行った実績とその成果を改めて伺う。そして、その実績を踏まえて、どんな経緯で公約に至ったのか。

○松本 明香里（副議長候補）

副議長として全代会のプロジェクト運営、交流を促進して行きたいと考えた。議長との意見相違の懸念に対しては、議長の公約に賛同しているので問題ない。

○坂入 快（副議長候補）

これまでに複数の委員会で役職を経験してきた中で、多様な視点は委員長を支えるうえで重要であると考えている。これは議長や副議長にも同様に当てはまることであり、支え

る立場に魅力を感じている。また、自分が掲げている公約は、議長の公約と矛盾しないと考えている。

○桑原 侑（副議長候補）

議長は、全代会全体を代表するとともに、対外的にも全代会の顔であると考えている。一方で、副議長は、それぞれの得意分野を活かし、分担して全代会を支えているというイメージを抱いている。自分としては、全代会内外の両面から関わり、全代会をより良いものにしていきたいと考えている。また、議長が掲げる公約との間に大きな違いは感じていない。

○近藤 拓未（令和6年度議長）

時間の都合から2つの質問を同時に回答するように願う。回答しきれなかった2つ目の質問については余った時間に対応する。

○足立 美空（生物資源学類）

松本候補と坂入候補に教育生活環境調査について質問する。回答フォームへの動線に関して、全代会 Web サイトを必ず経由することで、将来の仕様変更等に関して余裕を持たせたいと思っている。教育生活環境調査の活用・活性化を掲げる2人に、この構想について意見を伺いたい。

○松本 明香里（副議長候補）

良い構想であると考えている。現状は教育生活環境調査の回答をHPに掲載しているが、回答の羅列にとどまっている。副議長となった暁にはその構想の促進も行っていきたい。

○坂入 快（副議長候補）

その構想を支持すると共に、教育生活環境調査については公約で述べた認知度を上げていくことで実質的な回答率アップにも繋げていきたい。

○カーニー 晴希（教育学類）

クラス連絡会においては、しばしば全学的な課題が議題として挙がるものの、「自学類では対応できない」といった理由で議論が停滞する事例が見られる。このような場合、本

来であれば全学的課題を所掌する全大会が対応するはずだが、現状では学類等代表と全大会との連携が不十分であり、問題がそのまま埋もれてしまう懸念がある。また、全大会の役割が学生に十分に認識されていない点も含め、学生組織全体が体系的に機能不全に陥っていると指摘できる。こうした学生組織の現状に対し、どのような改善策や取り組みが有効であると考えるか。学生組織のあり方や、連携の在り方について意見を伺いたい。

○坂入 快（副議長候補）

クラス連絡会で取り上げた内容の中には、学類では対応できないものもあった。学類間の連携や情報共有が不足しているため、クラス代表者会議間でのコミュニケーションを強化すべき。特に連絡会が集中する春C・秋C期間に、クラス代表者同士の交流の場を設ける必要がある。

○桑原 侑（副議長候補）

既にクラス連絡会の議事録はHPに掲載しており、Teamsのチャンネルを通じた交流も可能。今後は公約で掲げた「クラス代表者会議での交流促進」に注力していきたい。

○松本 明香里（副議長候補）

まずは他学類でクラス代表者会議がどのように運営されているのかを把握することから始めたい。

○カーニー 晴希（教育学類）

昨年度の副議長選挙で掲げていた「全大会の中・長期的な活動目標を定める」という公約について、達成されたと考えているか。また、達成されていない場合、現時点でその目標を達成する必要があると考えているか。

○桑原 侑（副議長候補）

私の視点では、その目標は達成されていないと思っている。ただし、昨年度の委員長との交流を通じて、必ずしもその目標を達成する必要はないと感じている。議長団や学類等代表それぞれに異なる目標があるため、各々が持つ目標を尊重することが大切だと考えている。

○黒田 大翔（数学類）

第1回本会議での質疑応答では、十分な回答が得られなかったため、改めて詳細に質問する。

新入生や全代会構成員の中でも内部事情に詳しくない人に対して、どのような教育・支援対策を想定しているのか、具体的なイメージがあるか問いたい。

現状では、委員長連絡会や議長団、他の委員会が何をしているのかが分かりづらく、構成員であっても内情を把握できていないことが多いように感じる。そのため、一部のやる気のある人や、上級生とつながりのある人だけが上の役職や仕事を担い、委員会に毎週参加しているだけの人には業務内容が伝わっておらず、結果として参加率の低下や、他委員会との連携不足につながっていると考えている。

まず内部の人にすら活動内容が十分に伝わっていない状況で、果たして外部の人に向けて情報発信ができるのかという点についても、疑問を呈したいと思う。

○桑原 侑（副議長候補）

「垣根を超えた交流」として、委員長連絡会の存在があり、私自身や吉川氏が他の委員会にも積極的に参加してきた。委員会を横断した活動を通じて、自然と他の委員会の取り組みを知ることができると考えている。

○坂入 快（副議長候補）

誰が、どの程度、どのようなことをしたいのかを把握する必要があると考えている。そのためには、まず対話を重ねることから始めたい。「対話」「聴く力」「見通す力」を重視して取り組んでいく。

○松本 明香里（副議長候補）

委員会の内部にいる人間でさえ、他の委員会が何をしているか把握できていない現状が問題であるから、情報共有のために内報を作成することを提案したいと考える。

○森 望（社会学類中村代理）

坂入氏の強みについて問いたい。

○坂入 快（副議長候補）

「ありがとう」と「ごめんなさい」が言えることだと思う。また、自分の意見を述べるだけでなく、聞き手にもなれる。そして、全代会に3年参加した経験から内部事情に詳しいことだと考える。

○森 望（社会学類中村代理）

他の候補者の公約について、どう考えているか。

○桑原 侑（副議長候補）

今回の候補者全員の目指す方向性は近いと感じている。

○坂入 快（副議長候補）

松本候補の掲げる「居場所としての全代会」というスローガンには共感しており、今後協力していく意向である。最終的には、人と話し合うことが出発点になると思う。

○松本 明香里（副議長候補）

他候補の掲げる SNS の活性化は、全代会の知名度向上に直結すると考えている。

○黒田 大翔（数学類）

タスクが多くなった場合に、それに対応できる余裕はあると考えるか。

○桑原 侑（副議長候補）

私の所属する国際総合学類は、学習内容と全代会での活動内容との親和性が高いため、学業との両立がしやすいと感じている。

○坂入 快（副議長候補）

比較的忙しいとされる化学類に所属しながらも、昨年度は1年間、調査委員長を務めた。自分のプライベートを犠牲にしてでも責任を果たす覚悟がある。過去には化学類出身の議長団や、宅通（自宅からの通学生）出身の議長団もいたため、対応できると考える。

○松本 明香里（副議長候補）

できる。

なぜなら私は現在2年生で、学業的にも余裕があり、昨年度は55単位を取得しながら、全大会の活動にも問題なく参加できていたからである。

○趙 溢鈞（地球学類）

前年度の副議長選挙では、「副議長として活動したい」という意志を強く示していたが、今年度も引き続き副議長として活動したい理由は何か。議長や学類等代表ではなく、副議長という立場にこだわる理由・メリットがあるのか。

○桑原 侑（副議長候補）

私は議長のように「全大会の顔」として外部に出るよりも、全大会内部での活動に魅力を感じている。議長団であれば他組織とのミーティングにも参加でき、広く質の高い情報を得ることができるため、その情報を基に活動を進めることも可能になる。

○森 望（社会学類中村代理）

昨年度の第五回本会議で、学類等代表でありながら新入生歓迎委員会の委員として議題説明をしていた。規則に詳しいとのことだが、それは規則上問題ないのか。

○桑原 侑（副議長候補）

問題ない。全大会の規則第9条に基づいており、事前に議長団とも共有しているため、手続き上の問題はない。

○森 望（社会学類中村代理）

それは新入生歓迎委員会の立場としても問題はないのか。

○桑原 侑（副議長候補）

問題ない。

○森 望（社会学類中村代理）

現在は、クラス代表の議長が本会議に出席している状況で、クラス代表交流会を高頻度で開催する必要があるか。2～3ヶ月に一度という頻度は高すぎるように思える。

○桑原 侑（副議長候補）

現在は、クラス代表からの交流の要望がある状況である。オンラインよりも対面の方が交流が活発になりやすいため、年に2回程度、対面での交流会を設けたいと考えている。

○柿沼 陽菜美（生物学類）

桑原候補の演説における本会議での意見交流の機会を作るという発言について、本会議では議案提出者が賛成・反対を示した議員にその理由を求める制度があるが、それでは不十分だと考えるか。

○桑原 侑（副議長候補）

現状の制度では、本会議での採決後に賛成・反対の理由を聞くことしかできないが、私は、採決の前に意見交換・交流の時間を設けることが重要だと考える。

○柿沼 陽菜美（生物学類）

桑原候補が掲げている「本会議の改革」についてだが、意見交換が増えることで会議が長引く懸念がある。これについてどう考えるか。また、他の候補者の公約と方向性に違いがあるように見えるが、どのように協調していくつもりか。

○桑原 侑（副議長候補）

他の候補者との方向性が異なるとは思っていない。学生の意見を丁寧にまとめ、不要な部分は省きつつ、学生交流を重視していきたいと考えている。

○近藤 拓未（令和6年度議長）

以上で質疑を終了し、これより投票を行う。

○近藤 拓未（令和6年度議長）

議員40名以上の得票があった候補が選出される。また、0名または1名だった場合、決選投票を行う。

投票用紙が回収される。

○近藤 拓未（令和6年度議長）

開票の結果、桑原候補が20票、坂入候補が49票、松本候補が48票となった。

よって、坂入候補および松本候補は、いずれも過半数を占めているため、全代会副議長として選出された。

○近藤 拓未（令和6年度議長）

以上で、令和7年度議長団選挙を終了する。

○近藤 拓未（令和6年度議長）

第二回本会議は19:40より開始とする。

本日の議題は以上である。

○近藤 拓未（令和6年度議長）

これにて第一回本会議を終了とする。

散会

以上 総務委員会 作成